

お口爽やかですか

テーマ **小学校でのフッ素うがいに向けて**

美味しい食事は健康の礎(いしづき)

最近、医療連携という言葉が耳にする機会も増えてきていると思います。医療連携とは、高齢者の方や障がいを持つ方の自宅や施設などへ、医師、歯科医師、介護関係者、看護師などが訪問し、診察・治療・介護等を行います。その際に、対象となる方の健康状態を関係者全員が把握することで、より健やかな生活を送って頂くという、包括的なシステムです。

生涯にわたってご自分のお口で食事を楽しむことは、充実した健康生活の礎(いしづき)になります。

旭川歯科医師会は、口腔環境を清潔で健口に保つための口腔ケアの知識の普及と、その実践を推し進めています。

その健口生活ですが、美味しい食事は噛みしめることから始まりますので、そのためには、歯を喪失しないことが大変重要です。な

かでも虫歯が原因で歯を喪失することは、出来るだけ避けなくてはなりません。そのためには永久歯が生えそろう時期である4歳から14歳までのフッ化物洗口(フッ素うがい)が効果的であり、その有効性をこのコーナーでも幾度か説明させて頂きました。今回、改めてまとめましたので、ご紹介いたします。

○フッ素うがいの効果と安全性についてはWHOなど世界的専門機関・日本の厚生労働省などでも充分それを確認・推奨しています。

○旭川市内では現在、幼稚園・保育所の子供たち39施設、2518人が行っており、小学校入学と同時に中断されることにより、その効果がわずかなものになってしまっています。

○学校で行うことの意義は、家庭環境の差などに関係なく、希望する全児童がその恩恵を享受できます。

また、児童生徒の保健健康意識の向上にもつながり文部科学省も推奨しています。

○「健康格差」という言葉があります。それを守ってあげるのは大人たちの責任です。学校でのフッ素うがいは、集団での疾病を予防できる素晴らしいヘルスプロモーションです。

○4～14歳のころのフッ素うがいによる歯の抑制効果は成人になっても持続しているというデータが新潟県

いわゆるフッ素といわれているものですが、専門的にはフッ化物というふうに言うわけですが、このフッ素でフッ化物をうがいをするというのを、教育委員会が推進したいというふうに考えております。

これは早ければ早いほどいいので、小さいうちから歯磨きもそうですが、うがいをすることによりまして、お歯を防ぐことができると思います。是非ともこれを学校で行いたいと考えております。

いまの時代ですので、家庭

などでもはつきり示されています。8020達成の基礎となるものです。

○学校医療券(所得の少ない家庭に発行される)など、旭川市国保支出の減少も当然予測され、高齢者になっても少しでも残存歯の多い人のほうが、一般医療費も少なく健康であるデータも確認されています。

最後に、最近ラジオで放送された北海道教育委員会委員長・紙谷奈保子氏の談話を紹介させていただきます。

でも保護者の方たち、大変忙しいということもありますし、それにお住まいになっているところによりまして、すぐに歯科医院に行くという事ができればいいんですけど、なかなかそれができないという時間的なこともあるかもしれません。そういう格差がありますと、やはり子供1人ひとり平等に歯の健康を保つということが難しくなってしまうので、これは学校中心で行い、また、もっと早い時期からの子供たちの幼児教育の場でも是非進めて行きたいというふうな希望しております。